

学会彙報，奥付

雑誌名	中国文化：研究と教育：漢文学会会報
巻	45
ページ	105-106
発行年	1987-06-27
URL	http://hdl.handle.net/2241/00149844

学会彙報

○昭和六十一年度大塚漢文学会大会

六月二十八日(土)

於東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

一、韓愈の貞元年間の書簡文について

筑波大学大学院 谷口 匡氏

一、李商隠とその周辺の詩人たち

— 令狐楚を中心として —

筑波大学大学院 加固理一郎氏

一、杜甫の「潦倒」について

筑波大学大学院 谷口真由実氏

一、江淹の詩について

筑波大学附属高校非常勤講師 中野 将氏

一、梁啓超のジャーナリズム活動について

武蔵高校非常勤講師 佐藤 一樹氏

一、日本古典文学の典拠となる漢詩文についての二、三の問題

京都教育大学 青木 五郎氏

〔漢文教育シンポジウム〕

「漢文訓読の送り仮名法について」

東京工業高等専門学校 吉原 英夫氏

東京成徳短期大学 木村 秀次氏

〔総会〕

一、開会の辞

二、議長選出

三、委員長挨拶

四、諸報告

(1)庶務

(2)企画

(3)会報編集

五、議事

(1)昭和六十年年度決算

(2)昭和六十一年度予算

(3)その他

六、閉会の辞

○月例会

一、韓愈の墓誌銘について

筑波大学大学院 三上 英司氏

一、「文心雕龍」について

法政大学 安藤 信広氏

中村璋八氏を選出

水沢委員長

内山 委員

松本 委員

向島 委員

大上 委員

堀池 委員

堀池 委員

内山 委員

昭和六十一年十二月七日(日)

於校蔭会館

住所、勤務先等に変更のあった方は、事務局(〒305茨城県新治郡
桜村、筑波大学文芸言語学系内)宛一報ください。

大塚漢文学会々則

- 一、本会は、大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員を選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3 委員会が必要に応じて委員を委嘱することができる。
- 編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千元を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学芸言語学系中国文学研究室に置く。以上

編集委員(委嘱)

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 鈴木 修次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四五号

昭和六二年六月一日印刷
昭和六二年六月二十七日発行

編輯者

伊藤 虎丸・謡口 明・大上 正美
佐治 俊彦・安藤 信広・佐藤 一樹
阿川 修三

印刷所

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
株式会社 共立社印刷所
電 (20) 二〇〇二八

発行所

茨城県新治郡桜村
筑波大学芸言語学系内(〒三〇五)
大塚漢文学会